D 123　ソフト作りの為の予備調査　：大学生の色彩に対する関心度

福岡教育大学　福澤素子，○本乃真由美

目的　衣服を選択する場合，色の因子は大きな影響を与える。禁色のあった過去とは違い，現在私達は，自由に自分の欲するままに，衣服の色を選らぶことができる。自分に似あう色，また演出してくれる色を適切に選択できる能力を持つことは，現在の消費生活に必要なことであろう。そこで，当研究室では，パソコンで作ることができる豊富なカラーを利用して，自分に似あう色を認識させ，その上でカラーコーディネーションが出来る色彩教育をパソコンを使って行えないかと考えた。今回は，その基礎資料を得るために，自分に似合うと思っている服の色，好きな色，嫌いな色，また自分が実際に持っている服の色は，どの色が多いのかをそれぞれ調査し，被服の色彩教育の重要性を明らかにすることを目的とした。

方法　調査対象は，大学2年生（19～20才）男女366名とし，1989年12月，色紙（日本色彩研究所発行）を提示して，質問紙によりアンケート調査を行った。質問内容は，好きな色，嫌いな色，自分に似あう服の色，実際持っている服の色等とした。統計処理は，クロス集計をとった。

結果　男性は　好きな色，自分に似あうと思っている服の色，そして，実際に持っている服の色は，黒白濃紺の順で一致した。女性では，好きな色は，白・ピンク・水色，似あうと思う服の色は，黒・白，実際に持っている服の色は，黒・茶・白であり，男性とは異った結果を示した。嫌いな色は，男女ともこい青紫，あざやかな赤紫であった。